



1493

邑警察構成
邑警人勤勞心得
此由警察假規則



414
A 326



邑警察構成心得

第一條

各府東京府下各邑限リ警察ヲ置キ

第二條

邑警人ト稱シ地方警部ノ監督ヲ受ケルハ

滿二十年以上滿五十歳以下體格強壯性行端

正ニシテ普通ノ文字ヲ會得スル者ヲ公撰若

クハ官撰シテ縣令之ヲ授任スニシ共曾テ懲

役ノ刑若クハ身代限リノ惠分ヲ受ケシ者又

第三條

邑警人ハ土地ノ廣狹人口ノ多寡ニ隨

テ適宜設置ス其狹隘地ニ在テ數村ヲ兼

轄戸長アルテ兼任マシムル得ニシ

但シ一邑ニ數員ヲ設置スル時ハ其

大正十一年四月
大隈侯爵邸

七 邑警人ト称シテ諸務ヲ處理セシムルニ其
 他
 八 總テ邑警人ト稱シテ諸務ヲ處理セシムルニ其
 他
 九 屬セシム
 第四條 邑警人ノ俸額ハ土地ノ便宜ニ付スト
 第五條 邑警人及ヒ其附屬員旅費日學費ニ臨時
 辦學料ハ此查旅費定則ヲ斟酌規定スベシ
 但シ管内巡回ハ旅費ヲ給セズ若シ事機ニ
 由リ宿泊ヲ要スルハ旅籠料并ニ辦學料
 ヲ給スベシ
 第六條 邑警人及ヒ其附屬員ノ制服徽章ハ道
 直ニ定ムルヲ得ルト虽モ縣内可成一振ナル
 要ス

第七條 邑警察設置ノ諸費及ヒ其計算ハ區戸
 長之ヲ提調シ警察會議ノ檢閲ニ付スル後縣
 令ニ具申スベシ
 第八條 邑警人及ヒ其附屬員職務上ノ賞罰ハ總
 テ此查賞罰規則ニ斟酌依準シ其罰金ハ適宜
 貯積ノ法ヲ設テ邑警察費ニ充テハシ
 第九條 邑警人偏私ノ処置ヲ為シ或ハ庇隱ス
 ル等後日其罪發覺スル時ハ官ニ對シ其責ヲ
 負フベシ
 第十條 邑警人ノ外吏ニ名望資産アル者ノ公
 撰シ警察委員ト為スベシ
 第十一條 警察委員ハ該區ニシテ常務ニ任
 命スルヲ得ルハ其行ニ警察會議ニハ非

時臨ニ其宜警又官ト協事ヲ執

但シ更宜區長ヲシ
第一二條 警察委員ハ其功勞ニヨリ各府縣限
リ適宜徽章ヲ賞授セラル、コアルニシ

邑警人勤務心得

第一條 邑警人ハ地方警部ノ監督ヲ受テ
ト協示シテ専ラ部内ノ警察ヲ執行シ及ヒ田
野山林ヲ巡察スルヲ掌シ

第二條 邑警人ハ常ニ部内ノ風土人情ヲ諳熟
シ且住民ノ举止履行ヲ探知シ其善惡ヲ甄別
スルヲ要ス

第三條 人民ニ對シテハ振テ丁寧懇切ヲ旨ト
シ威權ヲ用敷奉勤ハ嚴ニ謹戒シ其暇味者
殊ニ注意シテ累科ニ陷ラザラレハ要

第四條 陋習汚俗ハ勢ノテ改メ道ヲ
去テ蕩治シテ説諭ニ從ハハ恭
去テ蕩治シテ説諭ニ從ハハ恭

百、親戚隣佑、保管シ警部ニ、申ス、

第五條 現行犯罪人ハ、直ニ於押、其非現行犯

ハ、警部ニ申告シテ、氣分ス、

但シ放火、人命、強姦、強盜等ノ重罪犯ハ、非現

行ニ係ルト、虽モ其証憑確的ノ者ハ、臨機拿

捕スルヲ得

第六條 人相書洵示ノ罪犯ニ注意シ、部内ニ潛

匿等ノ疎漏ナキヲ要ス

第七條 警察ノ諸規則ニ習熟シ、事ニ臨ミ、誤謬

ナキヲ要ス、時々管轄ノ警察署又ハ、巡回警部

ニ就キ、其示諭説明ヲ乞フベシ

第八條 部内ノ事故ハ、毎週表ヲ以テ管轄ノ警

部ニ報シ、其非常事件ハ、臨機即報スベシ

巡回警察假規則

第一條 巡回警察區ヲ神奈川、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、山梨ノ七縣ト定メ、内務警視員ヲ以テ其警察ヲ執行シ、巡回監視セシムルニシ

第二條 巡回事務ハ内務卿之ヲ総理シ、各縣令ハ其管轄内ノ巡回視ヲ提督スルニシ

第三條 各縣警部ハ其管轄内ノ巡查色警人等ヲ監視シ、各邑警人ハ其所属ヲ指揮シ、毎日一回町轄ノ村落ヲ巡回視セシムルニシ

第四條 毎歲少クモ四次以上内務省ヨリ警視員ヲ派遣シ、各縣ノ警察事務ヲ執行シ、監視シ、報告書ヲ以テ地方ノ事情ヲ具上セシムルニシ

第五條 各縣ノ警部巡回査ハ毎月少クモ二次以上各村ヲ巡回シ、巡回月報表ヲ製シ、翌月五日前、縣令ヲ經由シ、内務省ニ提出スルニシ

第六條 巡回警部巡回査ハ、各邑警人若クハ其所属ノ巡回警部巡回査ノ事務ヲ執行スルニシ

三 関スル命令ニ各縣限リ地行ニ規則ニ專ニ執道契初シト世内懶惰涵
逸業ノ陋習ヲ矯正セラルシ

第七條 凡ソ深偵拘捕等ニ関スル勤務ニ於テ互急ノ要ル時内務警視
官ハ各縣ニ通シ各縣警部巡查ハ其管轄内限リ皆親ラ之ヲ執行シ或
ハ邑警人若クハ其所属ヲ使役スルコトアルニシ

第八條 凡ソ巡回ハ内務派遣ノ警視員及ヒ各縣警部巡查ノ別ナク二人
ヲ一列トシ其巡回ノ路次ハ便宜單行視察スルヲ得ルト雖モ事情已カラ
得ラル場合ヲ除ク外其宿泊ヲ異ニスルヲ禁ス

但シ宿泊ヲ異ニスル時ハ其事由ヲ詳記具申スニシ

第九條 派遣警視員ノ巡回順序ハ内務卿之ヲ規定シ其各縣警部巡查
ノ巡回順序ハ縣令之ヲ規定スニシ

